

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520619

研究課題名(和文) 留学生の授業外第二言語使用 - 会話分析の観点から

研究課題名(英文) Communicating in the real world--International students' use of L2 outside the classroom

研究代表者

T・S Greer (Greer, Timothy)

神戸大学・学内共同利用施設等・教授

研究者番号：10320540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：会話を出来るだけ自然な形で捉える事を目標にし、その様子をビデオに採り、そのデータを細かく書き起こす。社会言語科学的・語用論的な面からそのやりとりを観察し、現象を分類する。本研究は特に教室以外の様子で「自然な言語学習」が行う場面に注目する。例えば、日本語非ネイティブである外国人留学生の日本語会話および短期留学プログラムに参加する日本人学生とホームステイ家族との英語やり取りを分析することによって、同様の現象は両言語で見える比較研究にもなる。参加者が複数回に会いを含むデータも採り、出来る限り長いスパンの会話を収録する。やりとりの中で外に表れた諸相が重要であるから、ビデオが有力な手段となる。

研究成果の概要(英文)：With the aim of observing second language interaction in natural situations, this research projected collected video recordings of unscripted talk and transcribed them in careful detail according to the conversation analytic (CA) approach. The interaction was then carefully observed from sociolinguistic and pragmatic perspectives and various interactional practices were identified. For example, similar practices were observed in a comparative analysis of interaction between non-native speakers of Japanese having their hair cut in Japan and Japanese students of English taking part in a short term homestay program in the United States. In addition, the study proposes a micro-longitudinal approach to conversation analysis, tracking the development of interactional competences across spans of time. The video recordings enabled close observations of actual instances of talk rather than relying on the impressionistic reports of the participants.

研究分野：言語教育

キーワード：会話分析 Conversation analysis 海外留学 Study abroad Interactional competence Repair Co deswitching

1. 研究開始当初の背景

現在グローバル化の中で、日本人学生の海外留学または、外国人留学生の日本での留学生の数が多くなってきている。英語教育・日本教育などの言語教育は教室内で行う言語学習についての研究が進んでいる一歩で、第二言語を使用する留学生の間、教室であまり見られない会話的現象 (interactional practice) はむしろ教室外の自然な英会話で行うことが多い。本来、言語は学ぶモノだけではなく、目的を持って実際に使うモノであるはずであろう。本研究の出発点はこれらの現象を徹底的に観察・分析をすることであった。学習者同士または学習者と母語話者の間の会話コレクションを収集し、それらに基づき、自然な場面で留学生たちどうやってコミュニケーションを取れるのかを観察した。また、通じない際、どうゆう風により換える現象も研究した。

2. 研究の目的

会話分析 (Conversation Analysis 以下、CA と記述) という会話に対する機能重視 (emic=イミック) の社会言語学的アプローチを用い、本研究では非ネイティブの留学生と、彼らが日常生活において出会うネイティブスピーカーとの間の相互作用を深く、経験的に叙述することを目的とする。そうすることで、異文化間の相違、誤解、コミュニケーション上の困難が、日常の第2言語 (L2) のやりとりの中で、どのように処理されるかが詳細に提示される。今まで、留学経験者の印象や意見を訪ねる研究はあるが、実際にコミュニケーションを行っている場面を直接観察する研究は乏しく、本研究は非ネイティブ留学生の言語使用を考える上での、日本語及び英語を中心に据えた会話分析である。また、フォーリナートークという概念を会話分析の立場から考察することで、Sacks が初期に提唱したレシピエントデザインという概念の重要性が

改めて認識され、両概念を総合することで、ネイティブスピーカーが会話の中で非ネイティブをどう扱っているかということについての理解が深まった。

3. 研究の方法

研究方法としては、会話分析を取り入れた。母語話者と非母語話者である留学生の間、教室外に行う自然な会話を録画・録音し、その会話に行う社会的現象を分類・分析する。そのため、各会話を細かく記述したトランスクリプトを作成して、発話行動別にコレクションを制作する。具体的に以下の表1の通り、さまざまな場面からの日本人留学生の自然英語会話及び外国人留学生の自然日本語会話のコーパスを7つ集めた。

対象言語	録画数 (合計時間)	コーパス名 (会話内容)
日	15 件 (14 時間)	Haircut (カット中の会話)
英	13 件 (3 時間 59 分)	Graz 2012 (自然学習会話)
英	15 件 (3 時間 41 分)	Hawaii 2014 (ホームステイでの自然会話)
英	4 件 (1 時間 38 分)	Griffith 2015 (ホームステイでの自然会話)
日・英	3 件 (1 時間 41 分)	Lunch pair 2014 (食事時の自然会話)
英	9 件 (3 時間 3 分)	UW 2012 (ホームステイでの自然会話)
英	6 件 (2 時間 7 分)	UW 2014 (ホームステイでの自然会話)
合計	65 件	(27 時間 9 分)

表1 データの概要

4. 研究成果

こういった自然会話を(約27時間)ビデオ・データベースにされ、分類・分析による以下の会話上現象を分析してきた。

(1)「会話上の気づき」

第2言語習得研究で Schmidt の Noticing Hypothesis は認知言語的な観点からの研究はあるが、社会談話的な研究はまだ少ない。この部分はホームステイでのデータを用い、参加者が自然会話の中で「学習」(learning)ということをごどのように注意するかを調べた。この事例は発話者がある言語使用に気づくことから始まる。直前の話や環境的な文字などに注目され、会話に取り込む働きが生まれる。学習者の気づきは目的言葉の繰り返しによって、その言葉が会話の話題になる。その後、説明・代わりになる言葉・会話的修復等といった教室によくあるインターアクションとなる場合が多い。本研究は、様々な場面で、会話的気づきを分析する。会話だけではなく、イントネーション・目線・ジェスチャーなどの multi-modal 分析に入れる。言語的な知識をまとめる学習者が母語話者に教師のような資質を得て、認識論的非対称性も会話の中で現れることになる。

(2)「第三者による会話的修復」3rd person repair

相互作用的修復は、通常、1人または2人の話者によって対処され、トラブル源を言った話者本人が自分で治すか聞き手が修復の解決方法を提案する。しかし、たまに第三者も「仲介」(brokering)と呼ばれている修復の形で関与することがある。特に受信者がL2利用者である場合には、会話的なトラブルを解決するため、ブローカーが支援を提供し、話を媒介する。したがって、仲介は瞬間的に参加者の配置を再構成し、関連するアイデンティティ・カテゴリと認識論的階層を呼び出す。会

話分析的なアプローチを採用し、英語の初心者が第三者の母語話者に第三者の発言を説明するようアピールする場面に注目する。データは、ホームステイでのマルチパーティ夕食会話録画から取得された。



図2 ホームステイ会話の様子

(3)「受け身の言語切り替え」Dual receptive language alternation

この部分は、日本の美容室で観察した現象についてである。長手方向の会話分析を使用し、4回のヘアカットに渡り、外国人客と日本人美容師との間のバイリンガル会話を追跡する。最初のアポの終わりまでに、美容師が主に日本語、お客さんが主に英語で話すというデュアル受け身系言語交番(dual receptive language alternation)または「Lingua Receptiva」という手段が生まれてきた。



図1 カット中の会話の様子

後の方のアポでは参加者がもっと自由にお互いの言語を混じった会話もあった。二人の発話者は、言葉を言い換えたり、簡単にしたりしたことによって、ターンの構成に工夫した。この観察によって、お互いを持つ recipient design の概念が会話上で見える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

Greer, T. Appealing to a broker: Initiating third-person repair in mundane second language interaction, *Novitas ROYAL*, 9(1), 2015, 1-14.

http://www.novitasroyal.org/Vol_9_1/greer.pdf

Greer, T. 他 Identity in intercultural communication: How categories do things, *PanSIG Proceedings*, 9(1), 2014, 155-164.

http://media.wix.com/ugd/b3a552_5e29efa530dd4d1485ca5612fbb2f022.pdf

Greer, T. Establishing a pattern of dual-receptive language alternation: Insights from a series of successive haircuts, *Australian Journal of Communication*, 40(2), 2013, 47-61.
<http://austjourcomm.org/index.php/ajc/article/view/1/28>

Greer, T. Word search sequences in bilingual interaction: Codeswitching and embodied orientation to shifting participant constellations. *Journal of Pragmatics* 57, 2013, 100-117.
doi:10.1016/j.pragma.2013.08.002

[学会発表](計10件)

Greer, T. Abandoning repair, 全国語学教育学会 (JALT) PanSIG conference, 2015.5.16, 神戸市立外国語大学 (兵庫県)

Greer, T. Recalibration in bilingual interaction: Other-medium formulations as precision, *American Association of Applied Linguistics (AAAL) conference*, 2015.3.23, トロント (カナダ)

Greer, T. The interactional occasioning of an opportunity for language learning. *Kansai University CA workshop*, 2014.3.18, 関西大学 (大阪)

Greer, T. Talking borders into being: Multi-person repair in L2 talk, *JALT conference*, 2014.11.23, つくば大学 (茨城県)

Greer, T. Orienting to language learning in the wild: A multimodal analysis, *AAAL conference*, 2014.3.23, ポートランド (アメリカ)

Greer, T. Some multi-modal constraints on L2 use in client-hairdresser talk, *JALT conference*, 2013.10.24, 神戸 (兵庫県)

Greer, T. 他 Identity in interaction: How categories do things, *JALT PanSIG conference*, 2013.5.18, 南山大学 (愛知県)

Greer, T. Negotiating language from the barber's chair. *Australian Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis*, 2012.11.30, ブリスベン (オーストラリア)

Greer, T. On doing Japanese awe in English talk. *19th Sociolinguistics Symposium*, 2012.8.24, ベルリン (ドイツ)

10 Greer, T. Establishing a pattern of dual receptive language alternation: Insights from a series of successive haircuts, Conference on Thinking, Doing and Learning: Usage based perspectives on second language learning, 2013.4.24, *University of Southern Denmark*, (デンマーク)

[図書](計3件)

Okada, Y. & Greer T. Pursuing a relevant response in OPI roleplays. Palgrave MacMillan, S. Ross & G. Kasper (Eds.) *Pragmatics and Language Testing*. 294-315.

On doing Japanese awe in English talk. John Benjamins, G. Kasper & M. Prior (Eds.) *Talking Emotion in Multilingual Settings*. In press.

Greer, T. Turn design and emergent familiarity in opening sequences of second language interaction, National Foreign Language Resource Center, *Interactional Competence in Japanese as an Additional Language*, (Pragmatics and Interaction Series), Forthcoming.

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://tim792.wix.com/greer#!projects/c24sk>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

グリア ティモシー (Timothy GREER)

神戸大学・大学教育推進機構・教授

研究者番号: 10320540